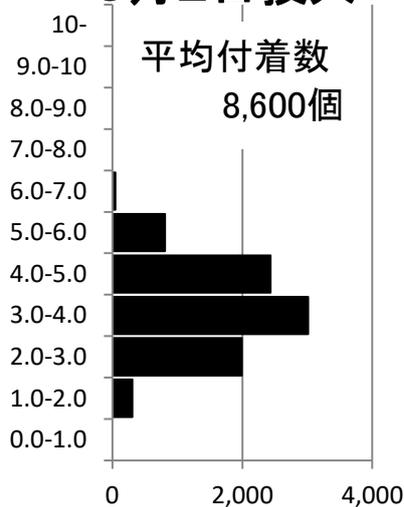


◎湖内試験採苗器付着量調査結果（7月29日引き上げ）

サロマ湖内に6月2日に投入した試験採苗器の付着状況を調べた結果、3地点平均で付着数は約8,600個/袋、殻高は約3.7mmでした。付着数は昨年より多いものの、殻高はやや小型でした。

引上7月29日		ホタテ		イガイ	その他
		付着数	サイズ(mm)		
6月2日 投入	St.2	6,100	3.89	4,600	60
	St.3	8,000	3.67	800	60
	St.4	11,700	3.60	2,800	0
平均		8,600	3.72	2,733	40

6月2日投入



調査年	平均付着数	平均殻高mm
平成29年	32,437	2.10
平成30年	7,328	3.20
令和元年	7,413	3.91
令和2年	8,597	3.58
令和3年	1,633	4.09
令和4年	8,600	3.72
過去5年平均	11,001	3.20

◎ヒトデ、ウミセミ、クリガニに注意して下さい

ヒトデは自身の腕長以下のホタテを1日に10個位も食べる場合がありますので、注意して取り除いて下さい。

ウミセミ（ダンゴムシ状の生物）は小型の稚貝を捕食しますが、1日に100個程度も捕食することがあります。

クリガニは採苗器に穴を開けて侵入し、大量の稚貝を捕食します。
仮採苗の際には、これら外敵生物を十分除去して下さい。

◎高温・高水温に注意して下さい

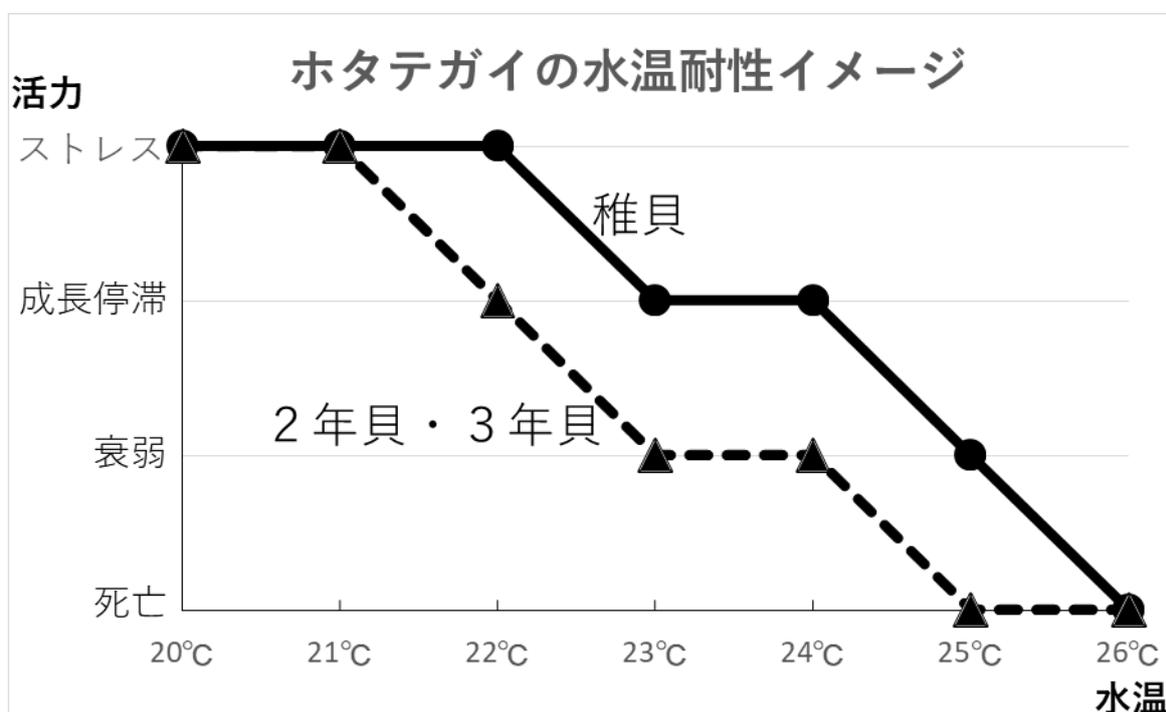
サロマ湖内の水温は現在平年並みですが今後気温の上昇が予想されることから作業の際は十分に注意して下さい。

●ホタテガイの水温耐性

ホタテガイは冷水性の生物で高水温に弱い。近年地球温暖化の影響とみられる高水温が頻発しており、これまで培ってきた採苗技術だけでは対処しきれない事態が生じる可能性もあり、改めてホタテガイの水温耐性について確認したい。

これまでの調査研究から、2年貝・3年貝は水温 22℃以上が 1 週間続くと斃死する個体が出現すること、25℃以上では斃死してしまうことが明らかとなっている。また、稚貝については2年貝・3年貝に比べて若干高温耐性を持っているが、青森県では水温 26℃以上で斃死することが分かっている。

ホタテガイの高温耐性は個体差があり、一律に水温何度以上で死ぬとは言い切れない部分はあるものの、下の図のような水温耐性イメージ図を作成した。この図はあくまでイメージであり、できるだけわかりやすく簡単に表現した図であるので注意頂きたい。



このイメージ図は分散作業などのストレスを与えていない状態での耐性なので、同じ水温でも分散作業などのストレスを与えると更に斃死に近づいてしまう。例えば2年貝・3年貝の場合は水温 22℃以上の時にポンプがけなどの作業を行うと衰弱や内着が増加してしまう可能性があるので十分注意が必要である。

●稚貝の分散作業では以下の点に注意して作業する必要がある。

- ・沖で作業する場合はできるだけ深いところから取水する（卵が腐ったような匂いがする場合は少しあげる）
- ・酸素を十分供給する（気温が高いと酸素供給でも温度が高くなるので注意）
- ・空中露出した稚貝はすぐに気温と同じ温度になるので、気温にも注意する
- ・1回にあげてくる量をできるだけ少なくする（短時間で海に戻す）
- ・前回あげた稚貝が残らないように、全部あげてから次の作業をする

青森県の事例では、高水温時に稚貝の様子を見に行き施設につかまった稚貝だけ斃死したという報告があり、高水温時はできるだけストレスを与えないことが重要である。